

下水汚泥からの再生リンの肥料化及び農業利用等に向けた取組について

本市では、下水道資源である再生リンの肥料活用により、肥料の安定供給につなげ、食糧安全保障の強化とともに、循環型社会の構築、さらにはSDGsの実現にも貢献する取組を推進しています。本取組は、JA全農かながわやJA横浜と連携して進めています。

1 再生リン回収事業の概要

(1) 事業の概要

令和4年度に本市と月島JFEアクアソリューション株式会社との共同で、下水汚泥から効率的にリンを回収する技術を国土交通省の下水道革新的技術実証事業（B-DASH プロジェクト）に応募し、令和5年2月28日に採択されました。令和6年3月27日に実証施設が完成し、国からの2年間の委託研究として再生リンの回収を試験的に始めています。



リン回収施設外観

(2) 再生リン回収施設の概要

ア 施設設置場所

北部汚泥資源化センター（鶴見区末広町1丁目6-1）

イ 生成規模

再生リン生成量：最大約110kg/日（約40t/年）

2 再生リン肥料化の取組

(1) 再生リンの肥料利用促進に関する連携協定

回収した再生リンを配合した肥料の製品開発・製造や市内での農業利用等の促進に向け、JA全農かながわ、JA横浜と令和5年7月に連携協定を締結し、取組を進めています。

【協定における主な役割】

- 横浜市 再生リンの供給、全体調整
- JA全農かながわ 肥料の製造
- JA横浜 肥料の流通



(2) 肥料登録

「肥料の品質の確保等に関する法律」で義務付けられている届出を農林水産省に行い、令和6年6月25日に、本市が申請した再生リンの肥料登録が完了しました。令和6年8月26日に、JA全農かながわが申請した再生リンを原料とした混合肥料の肥料登録が完了し、肥料の試験製造を開始しています。

(3) JA横浜と連携したPR

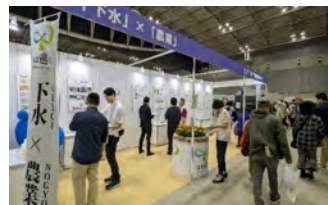
ア 出前講座 洋光台第四小学校へ再生リン回収事業の出前講座を実施

イ 市庁舎直売でのPR

再生リン回収事業の紹介や再生リン入り肥料の配布

ウ 横浜フラワー＆ガーデンフェスティバル2025でのPR

再生リンサンプルや試験栽培で収穫した野菜の配布等



横浜フラワー＆ガーデンフェスティバル2025
ブース出展の様子

3 農業利用に向けた試験栽培

JA全農かながわが肥料を製造し、2月には農業での試験栽培を開始しています。

(1) 肥料生産量 2,200袋（20kg/袋、44,000kg）

(2) 配布先 1,000名を超えるJA横浜の組合員

（野菜部や花き部等所属）

みどり環境局農業振興課（横浜市児童遊園地ほ場）

(3) 栽培品目 サツマイモ、タマネギ、小松菜、桜の苗木等

(4) 再生リン入り肥料を活用した「浜いも」プロジェクト

JA横浜の野菜部に所属するサツマイモ農家の有志が集まり、昨年から取り組み始めたプロジェクトです。同プロジェクトで栽培するサツマイモは、再生リン入り肥料を活用したもので、「浜いも」としてブランド化を目指し、JA横浜としても再生リンの取組を市民にPRしていくものです。



横浜市児童遊園地のほ場での施肥の様子

4 公園や里山ガーデンでの利用

市内の公園や里山ガーデン等の花壇で、再生リン入り肥料を試験的に利用しています。再生リン入り肥料を施肥した花壇には、「はま巡リン」の看板を設置し、本取組のPRを進めています。



里山ガーデン正面入口広場内花壇



横浜市児童遊園地花壇



5 再生リン入り肥料のGREEN×EXPO 2027に向けた活用

GREEN×EXPO 2027での活用に向け、国際園芸博覧会協会において再生リン入り肥料を使った植栽試験を行っています。植栽試験は、会場で想定される植物の維持管理等での適性確認を目的に同協会が実施するものです。この植栽試験の一環として再生リン入り肥料と従来の肥料を比較し、花壇の基肥としての効果を検証しています。

6 今後の取組

令和7年10月 秋の里山ガーデンフェスタにおけるPR

令和8年 試験栽培を踏まえて、再生リン入り肥料の製造を本格的にスタート

農家向けに再生リン入り肥料販売予定